

3学年だより

NO 585

飛翔

令和3年2月4日



小田原市立城山中学校
学年主任 水野喜代治

面接を受ける気持ち！

公立高校の入試が迫ってきました。学力検査の準備をみんな一生懸命に進めていますが、面接があることを意識することも大切です。面接は評価されて、選抜の資料としても使われます。面接は、大きく二つのポイントがあります。一つは、礼法です。面接室の入室から退室までの所作がしっかりできているかみられます。もう一つは、面接官の質問にしっかり答えられているかが問われます。

面接で力を発揮するためには、適度な緊張感をもって臨むことだと思います。緊張をしすぎると頭の中が真っ白になって、自分の意見が言えなくなったりします。かと言って、リラックスしすぎては、失礼な態度になることもあります。適度な緊張感をもって、面接に臨むことが必要です。緊張感は、相手がつくるものだと思っている人がいるかもしれませんが、緊張感は、相手が作り出すものでなく、自分の心の中で作り出されるものです。相手が作り出すものならば、怖そうな面接官の前で、すべての人が緊張するはずですが、しかし、実際は、そうではありません。あなたが緊張した面接官に、まったく緊張感に左右されずに面接を受けられる人もいます。

自分の心の中で、緊張感を自分で作り出せる人は、緊張を解くこともできます。つまり、緊張することと緩めることを自由にコントロールすることができるということです。緊張しないようにするには、緊張する場面でないときに、緊張感を作り出すことができるかということになります。面接官を教頭先生や校長先生など、普段話したことのない先生にしていただき、緊張感に慣れたいと思うことで、効果は薄いです。緊張感自分が作り出すものだからです。ですから、担任の先生や保護者など自分に近い人と面談をして、自分から緊張感をもつことができれば、緊張感をコントロールできることになります。誰と面談しても緊張感をつくれる自分を作ってみてください。